地震、そのときに大切なこと
家族の一員、社会の一員として地域や社会で愛される犬に育てよう!

同行避難は、ふだんのコミュニケーションがキーになる

2011年3月11日、東日本大震災発生時、津波の被害を受けた地域では、とにかく逃げるしかなかったそうです。うちの子と一緒に逃げることが生きる励みになった方もいれば、助けるために亡くなった方も…。「犬も猫も家族」という絆を感じるとともに、そうした現実が残念でなりません。
そこで、自らも震災を体験し、現在は仮設住宅に住む飼い主さんをケアされている阿部容子先生と「今からできること」について考えてみました。

宮城県石巻市「あべ動物病院」
臨床検査技師、
JAHA認定 家庭犬のしつけ
インストラクター
阿部容子 先生

被災ペットの救護活動に参加。その後、仮設住宅で暮らす飼い主さんのしつけの悩みを中心にケアするannproject（アンプロジェクト）を発足。

とっさの場面、同行避難するために

——災害発生時に落ち着いて避難するために、やっておくべきことはどんなことでしょうか?

今回の地震では、びっくりしてドアを開けた途端に飛び出したり、津波の中ではぐれてしまうことが多くありました。そんな時のために、一瞬離れてしまっても呼べばすぐ戻って来られる子に育てておくことが大切。『オイデと言って、来てくれたらほめる』ことを日常の中でしておくと安心です。

また、愛犬が体、耳、尻尾など、どこを触られても嫌がらないことも重要です。実際に、津波で流されそうな子の耳や尻尾を掴んで助けた人もいらっしゃいました。『飼い主さんに触られることが幸せ』と愛犬が感じられるように接してあげましょう。他にも予備のリードをクレートの取っ手に結んでおけば夜でもすぐに見つけられますし、キャリーバッグや抱っこ紐、風呂敷があれば両手を自由にできて逃げやすいのでおすすめです。

避難所・仮設住宅での共同生活に備えて

——先生が避難所や仮設住宅を回られている中で、犬についてのどんな悩みをお聞きになりましたか?

悩みゼロという訳ではなかったのですが、犬がいることで避難所の雰囲気が明るくなり、動物が苦手な方が、逆に好きになるなんてことも!

しかし、仮設住宅では「吠える」という悩みが…。実は、仮設住宅のケアを始めるきっかけは「隣とつながる壁が薄いので吠え声が迷惑になってしまうのですが、室内で飼いたいんです」というご相談からでした。

——そんな時、飼い主さんはどうすれば?

「吠えちゃダメでしょ!」の一言で、さらに興奮することも。吠える状況を観察し、その状況を作らないようにしてあげ、吠えなかった時はしっかりとほめて良い時とダメな時の差をわかりやすくしてあげるといいですね。

——避難所や仮設住宅など、慣れない環境でふだん通り生活するための良いトレーニングはありますか?

やはり、クレートトレーニングです。「クレートの中が安心できる場所」と思える犬に育てば、災害に遭って場所や状況が変わっても安心して暮らせます。避難所のダンボールもクレート代わりになるんですよ。トイレトレーニングもできるといいですね。そして何よりも、「飼い主さんといることが安心」と感じられることが必要です。

——色んなことをしておきたいですが、愛犬に無理はさせないであげたいですね。

もちろんです。たくさんお話しましたが、一番大切なのは「犬を家族の一員から社会の一員に育てる」意識を飼い主さんにも持ってもらうことだと思います。

例えば犬を苦手に思うご近所さんにおやつを与えてもらうなどして、「飼い主さん以外の人とも仲良くできる」といった最低限の社会性を愛犬が身につけていれば、犬を苦手に思う人の見方も変わると思うんです。普段からそういうコミュニケーションを取っていれば、万が一の時に愛犬のことも含めて、きっと助け合えるはず。妥協点を探りながら、犬猫がみんなに愛される環境を私達から目指していきましょう。

1. 東北愛犬専門学院の先生達がボランティアでシャンプーをしてくれています。2. 避難所も和やかな雰囲気に。3. 仮設支援活動のきっかけとなったポンタくん。クレートトレーニングもマスター。4. ポンタくんから犬小屋をもらったことをきっかけに友達になったシェパードのケリーくん。5. ダンボールのクレートも大好きに! 6. 支援活動は心の支えにもなっています。7. 阿部先生のご自宅は1階まで浸水しました。8. 仮設住宅は軒先が似ているので、シールを目印に。

非常時に必要な持ち物

使いなれたもので、必要最低限に

- フード（3日分）、水（1リットル）
- ペットシーツ、ビニル袋
- 新聞紙（暖取り用）、ウェットティッシュ
- ふろしき
  （抱っこ紐にできて便利! 毛の飛び散り防止にも）
- 簡易食器（できるだけ軽いもの）
- 犬の写真、迷子札、
  記録カード（持病を書いたもの）、常備薬

「オイデ」などの練習についてはP.7に掲載中

message

JAHA認定 家庭犬のしつけ
インストラクター
中塚圭子 先生

神戸市動物管理センターでしつけを指導し、大阪ペピイ動物看護専門学校講師を務める。著書に「中塚流ニコニコしつけ読本」「犬の老いじたく」ほか。

「応援に行かなければ…」
阪神淡路大震災の経験者として。

阪神大震災において「災害時にペットをどうするか」という問題と向き合った経験から、次に震災があった時は支援に行くと決めていました。そして縁あって、阿部先生の仮設住宅支援をお手伝いすることに。ご苦労の多い中、飼い主様達に「うちの子の相談ができてうれしい!」と笑顔を見せていただけたことは私にとっても喜びでした。仮設住宅で『犬猫が落ち着ける環境』を作るには犬猫の心情を感じる習慣が大切。これからに備えて、人と犬猫がもっと意思疎通できるよう、また、今も困っている被災地の皆様や犬猫達のために私もできることを続けていきます。

動物救護の現場より

大震災からの復興を目指して…

東日本大震災の傷跡が今も残るなか、新たな課題に直面している各地の状況を取材してきました。（2011年12月現在）

宮城県被災動物保護センター

震災前と変わらず大切にしてくれる家族を探して…

宮城県被災動物保護センターは県内の保健所で保護した飼い主不明の犬猫の保護や、飼い主は判明しているけれど仮設住宅で一緒に暮らせなかったり、家の立て替えなどで一時的に飼えない動物たちをお預かりしている2次シェルターです。被災当時の70頭をピークに減少し、現在は17頭がここで暮らしています。

「一時預かりの飼い主さんには自立心を持ってもらうために、最低でも毎月一回、来所いただき今後の予定などを直接確認しています」と中川センター長。

「飼い主さんが飼えなくなった子や、飼い主不明のわんちゃんは、里親捜しをすることになります」

時間をかけてマッチングしているおかげで、出戻りは一件もないそうです。

ビニルハウスの中に就寝用のケージが並びます。

「常時マッチングは受け付けていますが、すぐにはお渡ししていません。家族全員に散歩してもらったり、先住の犬猫との相性を見ながら、条件を整えられた方にお願いしています。でなければ、人も犬猫も幸せになれませんから」

震災直後は避難所のケアに回りました。

震災直後、同行避難された方の中には避難所に犬猫は入れないと諦めてしまわれることがあったそうです。

「避難所でストレスなく飼育できるように、大きな避難所の長に獣医師会としてかけあって部屋を分けたり対策をとってもらいました。また、犬猫を避難所以外の場所に残しておられる方には、中に連れてきてもらいました」

宮城県被災動物保護センター・センター長
花園動物病院 院長
中川正裕 先生

「朝のケージ掃除は健康状態チェックも兼ねて欠かしません」

センターは2012年3月11日に閉所となります。しかし、命に関わる仕事はまだまだ終わりません。

「犬猫のためにも、今回の経験を生かしていきますよ」と強く語ってくださいました。

仙台市被災動物対策救護本部

（仙台市動物管理センター、仙台市獣医師会NPO法人エーキューブ、ハートtoハート）

保護を継続しつつ仮設住宅でのケアも。

保護動物は愛護センターで。一時預かりのペットは市内の動物病院が分担して保護しました。総数30～40頭。今も何頭か預かっている状況です。

「仙台市の仮設住宅への同伴入居についての要望書も提出しました。一緒じゃないと移らないという意志の強い飼い主さんが多く、少しでも力になりたかったんです」と、獣医師会副会長・小野先生。

「現在、仙台市では全般的に動物の仮設住宅入居が認められ、170頭の動物が同伴入居しています。その1軒ずつに健康管理に使える『どうぶつ手帳』を発行しています」

仙台市獣医師会副会長
小野動物病院 院長
小野裕之 先生

「自分が生きるか死ぬかの時でもペットを守る飼い主さんの大志に感動しました」

仮設住宅になっても悩みや問題は残っています。

「もうしばらくは活動を続ける必要があるでしょう。福島の被災動物も何頭か預かりました。助け合いながら復興していきたいです」

どうぶつ手帳
仙台の仮設住宅に配布。
自己紹介欄もあって、万が一も安心。

仙台動物管理センターでは、出産した子も。

福島県動物救護本部（飯野町シェルター、三春シェルター）

皆様のご支援のおかげで乗り越えてこられました。

福島県内の二つのシェルターでは、原発事故による警戒区域内から保護された犬猫たちが暮らしています。飯野町シェルターで一度保護し、健康チェックが終わると、三春シェルターに移ることになっています。お話を伺った福島県庁職員で獣医師の資格も持つ小野主任は、自身も防護服をまとって、警戒区域内の犬猫たちを保護、収容しました。

「5月頃は、毎日10～15頭ずつ保護され、あっという間に約200頭に。当時はたった7人で世話をしていたので健康管理もままならない状態で、正直、本当につらかったです。しかし今は、様々な方面からご支援いただき、物資も足りて、徐々に改善されてきました」

現在の保護数は1日に1、2頭。人と同じようにスクリーニングし、1万3000cpmを超えると除染対象になります。

「今のところ、多くて7000～1万cpm程度。犬は542頭保護した内、飼い主様の元には175頭戻りました」

現在は2つの施設の犬猫275頭を常時12名でお世話していますが、寒い時期や平日など日程次第では人手に不安がでてきます。

福島県保健福祉部
食品生活衛生課/
小野剛 主任

「行政の立場からできる保護もたくさんあるんです」

「清掃活動が主なお仕事で、余裕があればお散歩に行きます。ボランティアさんは多い時で12、13名も来てくれてとても有難いです」

しかし、余裕がなくて散歩してあげられない日は申し訳ないです。と、お話くださいました。

家族と一緒の生活に戻ることが一番の幸せ

保護した犬猫たちの飼い主さんは判明している場合が多いそうです。

「ひょっとすると来年には家に帰れるかもしれない。そんな判断のつきづらい現状がうちの子を手離せない理由になっています」

三春シェルターで活動している獣医師・渡邉先生は、自身も警戒区域内から避難して来られました。

「住宅事情などで、実際飼いたくても飼えないんです。手離す決心がつかない気持ちは痛いほどわかります」と少し辛そうに話されました。

「やはり一番の幸せは、飼い主さんと一緒にお家で暮らすことではないでしょうか。元の飼い主さんが難しいなら、新しい里親さんでもいいんです。シェルターにいても人と触れ合える時間は限られているので、みんな寂しい想いをしているはず。早く、温かい家族と毎日一緒にいられるようにしてあげたいですね」

三春シェルター獣医師
わたなべ動物病院
丘の上ペットクリニック 院長
渡邉正道 先生

「ここにいる子はみんな僕の子」というくらいの愛情を持って接しています。

難しい状況の中、「できるだけ早く」と誰よりも願っているのは現場の方々だと感じました。

「今後、譲渡対象になる犬猫も増えてきます。ただ、飼い主さんとの話し合いにはまだ時間が必要だと予想されます。運営資金にも心配がありますし、運営期間の見通しも考えてはいますが、もう少しお時間をいただきたいです。関心を持ち続けてもらえるだけでも現場のスタッフの力になります」と最後に小野主任は語ってくださいました。

三春シェルターは、店舗跡を利用し、比較的広い個室になっています。

ペピイより

福島県を実際に訪れて、「人はもちろん、犬猫にも家庭を」というスタッフの皆様の想いを強く感じました。
ペピイでは、心配の尽きない状況の中でも被災ペット達のために働かれている皆様を少しづつでも応援できればと考えております。

被災したペットの生活のために。

福島県動物救護本部では活動は長期化が予想されます。
つきましては、ペットの飼育に必要な
義援金をお願いしております。

【振込先】
東邦銀行　県庁支店 普通預金
店 番 号　103
口座番号　1418368
口 座 名　福島動物救護本部義援金口
（フクシマドウブツキュウゴホンブギエンキングチ）

※義援金は全て被災動物のためのシェルター整備や運営等にあてております。

里親さんも随時募集中。

ホームページより対象動物や条件を必ずご確認の上、
「譲り受け申込書PDF」をダウンロードいただき、郵送、または、FAXください。

※お電話による受付はおこなっておりません。ご了承ください。
※厳正な審査をおこない、選ばれた方にのみマッチングの日程をご連絡いたします。

詳しくはこちらまで
福島県動物救護本部ホームページ
www.pref.fukushima.jp/ eisei/ saigai/ kyuugoindex.htm

ボランティアさんも募集中!